



平成 27 年

## 第 2 回名寄市議会定例会行政報告

名 寄 市

平成 26 年度の決算概要	1
“市民と行政との協働によるまちづくり”	3
・市民主体のまちづくりの推進	3
・人権尊重と男女共同参画社会の形成	5
・交流活動の推進	5
・広域行政の推進	6
・効率的な行政運営	7
“安心して健やかに暮らせるまちづくり”	7
・地域医療の充実	7
・子育て支援の推進	10
・地域福祉の推進	11
・高齢者福祉の充実	11
・障がい者福祉の推進	12
“自然と環境にやさしく快適で安全なまちづくり”	13
・循環型社会の形成	13
・消防	14
・防災対策の充実	15
・交通安全	15
・住宅の整備	16
・都市環境の整備	17
・上水道・簡易水道の整備	18
・下水道・個別排水の整備	18
・道路の整備	19
・総合交通体系	19
・雪を活かし雪に強いまちづくりの推進	19
“創造力と活力にあふれたまちづくり”	21
・農業・農村の振興	21
・林業の振興	24
・商工業の振興	25
・雇用の安定	26
・観光の振興	27
“心豊かな人と文化を育むまちづくり”	29
・小中学校教育の充実	29
・大学教育の充実	31
・食育の推進	33
・生涯学習社会の形成	33
・地域文化の継承と創造	35
・家庭教育の推進	37
・生涯スポーツの振興	38
・青少年の健全育成	38

本日、平成27年第2回定例会の開会にあたり、これまでの主な行政事項について、その概要をご報告申し上げます。

## 平成26年度の決算概要

はじめに、企業会計を除いた平成26年度の各会計決算について申し上げます。

5月31日をもって出納閉鎖となります一般会計及び特別会計の決算については、今後、計数整理を行うことから、ここでは、概要について申し上げます。

一般会計については、繰越しすべき財源を除いて、概ね3億5千万円の黒字となる見込みです。

歳入では、普通交付税において、社会保障関係経費に係る単位費用の増や、調整額の復活による追加交付などにより予算額を上回ったことと、歳出では、各費目における歳出削減などによる不用額が主な要因と思われます。

国民健康保険特別会計の保険事業勘定については、療養給付費等負担金や財政調整交付金、共同事業交付金の増などもあり、概ね5,700万円の黒字となる見込みです。

介護保険特別会計の保険事業勘定については、調整交付金の増などにより、概ね1,700万円の黒字となる見込みです。

国保・介護の保険事業勘定を除く特別会計については、一般会計繰入金で調整しますので、収支同額となる見込みです。

次に、基金の状況について申し上げます。

一般会計における5月末現在の基金残高は、70億9,064万円となりました。

当初予算の段階では、取崩しを10億6,228万円予定していましたが、決算剰余金を含めた積立と歳出の抑制などによる積戻し、財政調整基金や減債基金へ今後の財政運営を見据えた積立を実施したことにより、前年度と比べ4,291万円の増となりました。

主な基金の残高は、財政調整基金15億2,867万円、減債基金13億1,199万円、公共施設整備基金9億69万円、地域福祉基金1億2,886万円、地方交通確保基金1億5,504万円、合併特例振興基金12億3,160万円となっています。

このほか、特別会計で、国民健康保険支払準備金基金8,905万円、介護給付費準備基金1億3,687万円となっています。

これらの基金については、今後も、有効かつ適切に活用し、健全な財政運営に取り組んでまいります。

## “市民と行政との協働によるまちづくり”

### 市民主体のまちづくりの推進

次に、市民主体のまちづくりの推進について申し上げます。

名寄市自治基本条例の見直しについては、本年4月に、公募委員などで構成する有識者会議を設置し、市民意識や社会状況の変化などを考慮しながら、条例の内容について点検を進めているところであり、今後この有識者会議からの答申を踏まえて、条例改正の必要性を検討してまいります。

次に、地方創生について申し上げます。

国においては、各自治体が実施する地方創生の取組を支援するため、平成26年度補正予算により、地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金を創設しており、本市においてもこの交付金を活用し、交流人口拡大事業や農産物ブランド確立事業など、年度当初から地方創生の取組を進めているところです。

今後、国の地域経済分析システムなどを活用し、人口の現状と将来の展望を示す人口ビジョンを策定するとともに、総合戦略の策定にあたっては市民の皆様や関係団体、産業界や金融機関などで構成される外部策定審議会からご意見をいただきながら、市議会においても十分にご議論をいただくなど、ていねいな議論を重ねながらも、

スピード感を持って取組を進めてまいります。

次に、総合計画について申し上げます。

第2次総合計画の策定に向け、現在、第1次総合計画の検証と、将来人口推計や各政策分野における他自治体との比較などの基礎調査を進めているところです。

今後、これらの結果などをもとに、総合計画策定審議会や関係団体との意見交換会、タウンミーティングなどにより、市民の皆様のご意見を伺いながら、具体的な検討を進めてまいります。

次に、合併10周年記念事業について申し上げます。

本年度は、旧風連町と旧名寄市が合併し、新名寄市が誕生してから10年目を迎えるため、合併10周年を記念する各種事業を実施することとしています。4月には、記念事業を円滑に推進するため、庁内推進会議を設置したところであり、今後、記念式典や記念フォーラムの開催、カントリーサインの変更や民間の取組を含めた各種冠<sup>かんむり</sup>事業を実施するなど、地域の融和と一体感をより深めるための取組を展開してまいります。

## 人権尊重と男女共同参画社会の形成

次に、男女共同参画の推進について申し上げます。

男女共同参画の推進に関する条例については、外部有識者で構成する男女共同参画推進委員会において、これまで4回にわたり議論が重ねられており、平成28年度の条例施行に向けさらに検討を進めてまいります。

## 交流活動の推進

次に、交流活動の推進について申し上げます。

ふるさと会交流事業については、札幌風連会の総会が5月23日に開催され、会員の増強運動などに取組むことになりました。

山形県鶴岡市藤島との交流事業については、名寄・藤島交流友の会定期総会が5月1日に開催されたほか、会員をはじめとする15人の訪問団が、5月15日開催の「ふじの花まつり」に合わせて、鶴岡市藤島を訪れ交流を深めるとともに、私も14日に鶴岡市を訪れ、榎本<sup>えのもと</sup>鶴岡市長とさらなる関係発展に向けて意見を交わしました。

東京都杉並区との交流事業については、都市交流実行委員会が4月24日に開催され、人的交流や特産品販売のほか交流人口の拡大を目指した事業展開などを推進することになりました。

姉妹都市カナダ国カワーサレイクス市リンゼイとの交流事業につ

いては、7月から8月にかけてリンゼイから交換学生を受入れるとともに、昨年約300人が集まったハロウィンパーティーを引き続き開催することが、友好都市ロシア連邦ドーリンスク市との交流事業については、ドーリンスク市からの訪問団受入が、それぞれの友好委員会総会で決定されました。

また、台湾との交流事業については、4月に台湾国際教育旅行連盟の招きにより台中市、高雄市などを訪れ、台湾の多くの学校関係者に教育旅行先としての本市の魅力をPRしました。

交流居住の推進については、移住促進及び地域振興にオール名寄で取組むための「名寄市移住促進協議会」が開催され、首都圏でのプロモーション活動、地方移住に関する総合情報サイト「全国移住ナビ」を活用した情報提供などを行うことになりました。

## **広域行政の推進**

次に、広域行政の推進について申し上げます。

天塩川周辺11市町村で構成する「テッシ・オ・ペツ賑わい創出協議会」が5月25日に開催され、天塩川の認知度向上やそれぞれの地域の魅力紹介などを目的とした「天塩川フォーラム」を開催するほか、「天塩川ククサ」の周知活動、北海道暮らしフェアへの出展などを実施することになりました。



また、北海道の命名者であり、天塩川流域を調査した松浦武四郎が平成 30 年に生誕 200 年を迎えることから、これに併せて、北海道遺産である天塩川を軸とした広域連携や交流人口の拡大に資する取組を行っていくことが確認されました。

### **効率的な行政運営**

次に、行政改革について申し上げます。

本年度においても、5 月 12 日に行財政改革推進実施本部会議を開催し、「組織機構検討部会」「事業等見直し検討部会」の 2 部会を設置して協議を進めてまいります。

組織のスリム化については、各職場の状況を把握するとともに、ここ数年の急激な世代交代に対応するため、再任用制度も含めて円滑な業務の継承ができる体制づくりを進めてまいります。

また、施設使用料の見直しについては、ワーキンググループを設置して本年度中に新基準を策定してまいります。

## **“安心して健やかに暮らせるまちづくり”**

### **地域医療の充実**

次に、病院事業について申し上げます。

平成 26 年度の運営概要については、取扱い患者数が、入院で 9 万

6,388人、外来で22万6,575人となり、前年度と比較して、入院で5,367人の減少、外来で3,414人の増加となりました。

新たな会計制度による初めての収支については、病院事業収益で86億9,432万円、病院事業費用で112億2,558万円となり、差引き25億3,126万円の単年度純損失を計上しての決算となりました。

収益の主な内訳では、昨年4月から4カ月間、5階西病棟を一時休床したことによる影響などにより入院患者数が減少したものの、1人1日当りの診療単価が増加したことから、入院収益は前年度と比較して7,414万円の増収となり、外来収益でも、循環器内科、消化器内科、皮膚科などの患者数が増加したことから7,670万円の増収となりました。

一方、費用の主な内訳では、給与費で前年度と比較して、1億2,368万円の増加、減価償却費でも精神科病棟の改築や大型医療機器の更新に伴い、1億7,353万円の増加となりました。

本年度の診療体制については、診療科22科に医師51人と研修医9人の合計60人を配置、このほか74人の医療技術スタッフと285人の看護スタッフにより地域住民の健康増進に取り組んでまいります。

地方においては、拠点病院への医師の集約化・重点化が図られていますが、当院では、麻酔科で常勤医1人が減員となったものの、小児科で常勤医が1人、また後期研修医として1人が増員されまし

た。

次に、病院機能評価について申し上げます。

平成 11 年 12 月に、財団法人日本医療機能評価機構による道内公立病院として初めて病院機能評価の認定を受けてから、3 回目となる更新審査を昨年 11 月に受けました。今回の病院機能評価では、評価手法などの抜本的な改定が行われ、プロセス重視の審査となりましたが、本年 4 月に更新認定を受けたところです。

今後も医業収益の確保と経費節減に努めて収支の改善を図るとともに、医療の質向上と安全性の確保に、より一層取り組んでまいります。

次に、風連国保診療所について申し上げます。

平成 26 年度の外来患者数は延べ 1 万 3,054 人で、前年度と比較して 127 人の増となりました。

また、市内の特別養護老人ホーム 2 か所、高齢者施設、在宅患者の往診、予防接種、健診など多岐にわたる診療業務を行っています。

今後も初期診療、かかりつけ医及び健康管理を担う診療所として、名寄市立総合病院をはじめとした地域の医療機関と連携を密にし、医療・介護・保健・福祉の連携により、市民が安心して暮らせる医

療体制を目指してまいります。

### 子育て支援の推進

次に、子育て支援の推進について申し上げます。

子育て支援については、本年 4 月 1 日から子ども・子育て支援法が本格施行され、子ども・子育て支援新制度がスタートしました。

本市では、本年 3 月に「名寄市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、計画の基本理念である「ここで育って、ここで育ててよかったといえるまちをめざして」を達成するため、子ども・子育て支援の一層の充実を図ってまいります。

旧木材需要拡大センター「なよろ親林館」については、子育て支援センターとして利活用するための実施設計の終了後、10 月の運用開始に向けて準備を進めてまいります。

また、昨年度、対象児童 3,280 人の保護者へ交付した「子育て世帯臨時特例給付金」が本年度も実施されることになりました。本日から受付を開始しており、受給対象者へ給付金が行きわたるよう取り組んでまいります。

併せて、本年度は国の緊急支援交付金を活用した多子世帯支援といたしまして、児童手当該当年齢の児童を 3 子以上扶養している保護者に対して、対象児童 1 人につき 1 万円の地域商品券を「なよろ

ひまわり子育て応援券」として交付することとしています。

今後も、国の施策を注視し、子育て支援の向上を図ってまいります。

### **地域福祉の推進**

次に、地域福祉の推進について申し上げます。

平成 26 年 4 月からの消費税率の引き上げに伴い、所得の低い世帯の負担を軽減するため、昨年度 4,839 人を給付対象者として臨時福祉給付金支給事業を実施しました。本年度についても、引き続き実施されることになり、受付開始は 9 月 1 日からとなりますが、受給対象者へ給付金が行きわたるよう取組んでまいります。

併せて、国の緊急支援交付金を活用した市独自の生活支援事業として、臨時福祉給付金の対象者 1 人につき 3,500 円の地域商品券を交付してまいります。

### **高齢者福祉の充実**

次に、高齢者福祉の充実について申し上げます。

介護保険制度の円滑な実施をはじめとする高齢者保健医療福祉施策を総合的に盛り込んだ「名寄市第 6 期高齢者保健医療福祉計画・介護保険事業計画」を本年 3 月に策定しました。

本計画に掲げた、各事業の充実・推進により、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で様々なサービスを切れ目なく利用できるよう、介護、予防、医療、生活支援、住まいの5つのサービスを一体的に提供していく「地域包括ケアシステム」の構築に取り組んでまいります。

また、認知症サポーターの取組では、ますます増加する認知症の人を地域で支えるために、多くの方に認知症について正しい理解を持っていただくことを目的として、認知症サポーター養成講座の開催を強化してまいりました。

各関係機関、企業にご協力をいただき、平成26年度は講座を23回開催し、認知症サポーターが新たに417人誕生しました。

### **障がい者福祉の推進**

次に、障がい者福祉の推進について申し上げます。

本年3月に市民の皆様の協力を得て、「第4期名寄市障がい福祉実施計画」を策定しました。

今後の障がい福祉サービスに反映させ、障がいのある人が社会の構成員として、地域の中で安心して生活できるよう取り組んでまいります。

平成24年10月から始まった、障がい者版のケアマネジメン

トである計画相談の進捗状況については、市内4つの相談支援事業所と協力し、3月31日までに249人の計画を作成しました。

今後とも、計画相談が必要となる障がい者の計画作成を含め、相談支援の体制強化に取り組んでまいります。

## “自然と環境にやさしく快適で安全なまちづくり”

### 循環型社会の形成

次に、廃棄物対策について申し上げます。

昨年4月から「小型家電リサイクル法」に基づく使用済小型家電の回収に取り組んでおり、平成26年度の実績は、パソコン516台、ステレオ344台、台所用電気機器302台のほか、プリンター、ビデオデッキ、扇風機などが多く、そのほかの小型家電1,516台を含めた全体の回収台数では4,006台となりました。

今後とも、資源の有効活用と一般廃棄物最終処分場の負担軽減を目指し、小型家電リサイクルや容器包装リサイクルの推進、古着や廃食用油の回収推進に向けて周知を図ってまいります。

次に、新エネルギーの導入について申し上げます。

住宅用太陽光発電システム設置補助金交付事業については、本年度も2次に分けての募集を予定しています。1次募集分には6件の申

請があり、うち1件が既存住宅、5件が新築住宅となっています。

今後も2次募集を実施し、新エネルギーの普及・拡大を図ってまいります。

## 消防

次に、消防事業について申し上げます。

平成26年中の火災件数については、6件で前年比7件の減となり、負傷者の発生はありませんでした。

また、火災種別では、建物火災が4件、林野火災1件、車両火災1件となっています。

救急出動件数については、1,092件で前年比146件の減となり、事故種別では、急病742件、一般負傷141件、交通事故49件、転院搬送96件、そのほか64件となっています。

救助出動件数については、28件の出動で前年比4件の減となり、事故種別では、交通事故20件、そのほか8件となっています。

施設整備については、更新を進めていた消防・救急デジタル無線の運用を4月から開始し、個人情報保護における秘匿性の向上や大規模災害における広域的な活動の迅速化を図りました。

今後も地域住民の安全・安心確保のため、消防力の充実強化を図ってまいります。



## 防災対策の充実

次に、防災対策の充実について申し上げます。

東日本大震災の発生などを踏まえ、国において、平成 25 年 6 月の災害対策基本法の一部改正や平成 26 年 11 月の土砂災害防止法の一部改正などが行われました。

本市においてもこれらの改正に対応するため、減災並びに自助、共助、公助の考えを基本的な柱として、北海道地域防災計画の改訂内容との整合性を図りながら、本年 3 月 27 日に開催した名寄市防災会議において、名寄市地域防災計画の全面改訂を行ったところです。

今後、この地域防災計画に基づき、防災体制の充実、市民の防災・減災意識の向上と啓発を図ってまいります。

## 交通安全

次に、交通安全対策について申し上げます。

4 月 7 日、名寄南小学校において、新入学児童交通安全キャンペーン「ぼくも・わたしもフォトで交通安全」を実施しました。

入学式当日に新一年生とその保護者、交通安全運動関係機関・団体代表者で写真撮影を行い、新一年生へ寄贈することにより交通安全意識の啓蒙を図ったところです。

また、名寄警察署管内特別運動の「新入学期の交通安全運動」で

は、4月6日から10日間、関係団体や地域が街頭啓発「早朝パトロール・パトライト作戦」を実施し、事故防止と交通安全啓発、新入学児童の交通ルールの指導を行ってきました。

例年4月に取組まれている「春の全国交通安全運動」は、本年は5月11日から20日の10日間に全国一斉で実施されました。特に20日の「交通事故死ゼロを目指す日」には、西條デパート前において「旗の波作戦」を実施し、沿線通行車両や市民に交通安全意識の高揚と交通事故防止を呼びかけてきました。

## **住宅の整備**

次に、住宅の整備について申し上げます。

北斗団地については、鉄筋コンクリート造2階建て1棟12戸の建替工事を昨年9月に着手し、5月末の進捗率は約30パーセントとなっており、10月の完成を予定しています。平成28年度工事分の実施設計は本年8月に着手し、平成28年1月の完了を予定しています。

また、新北斗団地については、プレキャストコンクリート造平屋建て1棟4戸の全面改善工事を3月に着手し、5月末の進捗率は約40パーセントとなっており、7月の完成に向けて工事を進めています。

長寿命化型改善工事については、ノースタウンなよろ団地の改修

工事を7月に着手し、11月の完成を予定しています。また、風舞団地の改修工事については、平成28年度改修工事分の実施設計を7月に着手し、平成28年1月の完了を予定しています。

名寄市耐震改修促進計画の見直しに関する委託業務については、本年6月に着手し、平成28年3月の完了を予定しています。

### **都市環境の整備**

次に、都市環境の整備について申し上げます。

都市公園の長寿命化修繕計画に基づく施設整備については、名寄公園の老朽化した人道橋の更新工事を6月に、花園公園の遊具の更新工事を7月に、浅江島公園の石垣改修などを8月にそれぞれ入札を予定しています。

また、2年間の継続事業として平成26年度から実施している「ひと・ほし・環境にやさしい<sup>あか</sup>灯り事業」については、市道大通のLED街路灯更新工事として、昨年度に南4丁目から南6丁目間7基の更新を終えており、本年度は南1丁目から南3丁目間10基の更新工事について6月に入札を予定しています。また、防犯灯のLED化工事として、昨年度に学校を中心に341灯の更新を終えており、本年度は通学路を重点に約200灯の更新工事について6月に入札を予定しています。

夜空にやさしい照明とすることにより、歩行者の安全・安心の確保と管理コストの抑制を図るとともに、なよろ市立天文台をはじめ天体観測環境への配慮に努めてまいります。

### **上水道・簡易水道の整備**

次に、水道事業について申し上げます。

安定した給水を確保するための配水管網整備工事及び老朽管更新工事は、風連地区西町 3 丁目線をはじめ、名寄地区昭和通ほか 2 路線について、早期発注を実施しています。

計量法に基づく水道量水器取替工事については、対象量水器 1,656 台を 5 工区に分けて発注しました。

また、有収水量向上に向けた漏水調査業務に着手しています。

### **下水道・個別排水の整備**

次に、下水道事業について申し上げます。

老朽化した施設の改築工事では、名寄下水終末処理場における沈<sup>ちん</sup>砂池<sup>さち</sup>機械設備の更新工事及び雨水管渠新設工事として、豊栄川 3 号幹線の発注を 6 月に予定しています。

また、個別排水処理施設整備事業では、名寄地区 1 基の合併浄化槽設置工事の発注を終えています。

## 道路の整備

次に、道路整備について申し上げます。

社会資本整備総合交付金により整備を進めている昭和通ほか 4 路線の改良舗装工事と新規路線の南 3 丁目通の実施設計、道路改築工事に伴う路面性状調査については、6 月に入札を予定しています。

## 総合交通体系

次に、総合交通体系について申し上げます。

「なよろコミュニティバス」については、市民文化センター「EN-RAY ホール」の開設に伴い、本日からセンター構内へバスを乗り入れることで、利用者の利便性の向上を図りました。今後も効果的・効率的な市内バス路線の運行に取り組んでまいります。

また、老朽化した木造のバス待合所 2 棟の更新を進めるため、今月中に既存待合所の撤去及び設置作業を終える予定です。また、市立病院前の待合所については、外壁の塗装を実施し長寿命化を図ってまいります。

## 雪を活かし雪に強いまちづくりの推進

次に、除排雪について申し上げます。

この冬の降雪状況については、3 月末での降雪量が 639 センチメー

トル、最大積雪深は 104 センチメートルとなり、過去 5 カ年の平均との比較では、降雪量で 49 センチメートル、積雪深では 11 センチメートル少なくなっています。

除雪作業については、名寄及び風連両地区の市街地・郊外地区路線を合わせて 450 キロメートルにおいて実施しました。12 月には大雪がありましたが、1 月に入ってから降雪が少なかったため、前年度より 16 回少ない出動回数となりました。

排雪作業については、カット排雪を両地区の市街地生活路線 104 キロメートルにおいて 1 回、積込運搬排雪を幹線道路及び通学路 41 キロメートルにおいて 1 回から 3 回、交差点排雪を 276 箇所行ったほか、12 月の大雪により全市的に道路幅員が狭くなったことから、例年より時期を早めて排雪を行ない冬道の安全を確保してまいりました。

なお、この冬は 1 月からの降雪が少なかったため、排雪ダンプ総数は 2 万 4,771 台で平成 25 年度と比較しますと約 2 割減少しています。

また、排雪ダンプ助成事業についても、平成 26 年度の利用件数は 1,402 件、ダンプ台数は 4,323 台で、平成 25 年度と比較しますと約 2 割の減少となっています。

現在、これまでの取組実績をもとに除排雪対策の研究・分析を進

めており、冬の市民生活の安定を目指してまいります。

次に、利雪親雪文化の創造と推進について申し上げます。

利雪親雪に関する取組については、庁内の推進母体となる利雪親雪庁内検討委員会の体制見直しなどの検討を進めており、関係部局間及び市民委員会との連携を図りながら、名寄の冬を楽しく暮らす条例の趣旨を推進してまいります。

## “創造力と活力にあふれたまちづくり”

### 農業・農村の振興

次に、農業・農村行政について申し上げます。

本年の融雪期は、平年に比べ6日早い4月9日となり、その後の気温経過も高く推移しています。

5月15日現在の農作業及び農作物の状況は、水稻で、播種作業が平年より早まり、播種後の気温も高く推移したため、苗の生育も順調に進んでいます。

畑作物についても、耕起作業が例年より早く始まっており、てん菜については、移植が5月1日から始まり平年より7日早くなっています。

秋まき小麦については、雪腐れ病の発生が少なく、生育も平年よ

り 7 日早い状況となっています。

春まき小麦については、播種作業が早く終了し、出芽は良好です。

牧草については、越冬後のほう芽が平年より 5 日早い状況です。

このように、融雪期が早く気温も高かったことにより、農作物全体で順調に推移している状況です。

次に、米政策について申し上げます。

平成 25 年度から実施されている「経営所得安定対策」については、本年度交付金の総額で、前年度と同額の約 20 億円を見込み、農業経営の安定と地域農業の発展に向け、担い手の育成、各作物の生産振興など、効果的に活用されるよう、農業関係団体・生産者と連携して推進してまいります。

また、平成 27 年産の水稻は、主食米生産数量で、うるち米<sup>まい</sup>1,425 トン、もち米<sup>ごめ</sup>で 1 万 1,205 トンの配分があり、作付面積では、うるち米<sup>まい</sup>285 ヘクタール、もち米<sup>ごめ</sup>2,205 ヘクタールで前年度に比べ 98 ヘクタールの減少となっています。

また、加工用米の作付面積は、うるち米<sup>まい</sup>で 110 ヘクタール、もち米<sup>ごめ</sup>で 930 ヘクタールの計画となっており、水稻作付面積全体では、3,530 ヘクタールで前年度に比べ 77 ヘクタールの増加見込みとなっています。



次に、もち米<sup>ごめ</sup>文化の創生事業について申し上げます。

「日本一のもち米<sup>ごめ</sup>の里」についての理解を深めていただくため、「もち米<sup>ごめ</sup>サポータ養成塾」を開設し、16人の参加申込みをいただきました。

1回目は、もち米<sup>まい</sup>生産組合の農家の方にご協力をいただき、もみ播き作業及び育苗施設の見学を行うとともに、もち米<sup>まい</sup>低温貯蔵施設「ゆきわらべ雪<sup>せつちゆうぐら</sup>中蔵」の見学を実施しました。また、2回目は、田植えの作業体験を実施したところです。

今後は、収穫体験やもちつき体験などを通じて、さらに農業及びもち米<sup>ごめ</sup>文化の理解を深めていただき、全課程終了後には「もち米<sup>ごめ</sup>サポーター」として農業の魅力や、名寄のもち米<sup>ごめ</sup>の素晴らしさについて発信していただく取組を進めてまいります。

次に、有害鳥獣農作物被害防止対策について申し上げます。

本年度は、4月1日から駆除を開始し、4月30日現在でエゾシカ96頭を駆除したところです。今後も関係団体と十分に連携し、被害防止に取り組んでまいります。

次に、畜産の振興について申し上げます。

公共牧場については、指定管理者の「JA道北なよろ」に管理運

営を委託し実施しており、本年度も名寄市営牧野と母子里地区共同牧場において、受精対象牛を中心に受入を行ってまいります。

今後とも関係諸団体との連携を図り、畜産の振興に取り組んでまいります。

## 林業の振興

次に、林野火災について申し上げます。

本年度、4月22日に名寄市林野火災予消防対策協議会を実施し、関係機関並びに森林愛護組合などに注意を呼び掛けていました。また、ホームページにも掲載していましたが、残念なことに、平成27年4月29日午前11時30分頃、市内字瑞穂で林野火災が発生しました。

消防隊が出動し確認したところ、野火が山林へ延焼している状況であったため北海道へ防災ヘリの出動を要請し、地上からの消火活動に加えて午後1時35分頃から防災ヘリによる放水が行われ、午後2時28分に鎮火が確認されました。この火災による延焼面積は立木地<sup>りゅうぼくち</sup>0.58ヘクタール、原野2.15ヘクタールの合わせて2.73ヘクタールとなっています。

火災発生後についても、広報及びホームページで注意を呼び掛けているほか、全戸にチラシを配布しました。今後は気象状況に応じ

て巡回などによる注意喚起を行ってまいります。

次に、林業の振興について申し上げます。

森林資源の適正な保護育成については、森林所有者などによる森林経営計画への参画を促進し計画を認定することに加えて、北海道の「未来につなぐ森づくり推進事業」や市の「林業振興単独補助金」を活用して森林所有者の負担軽減を図り、優良な森林資源確保に取り組んでまいります。

### **商工業の振興**

次に、商工業の振興について申し上げます。

北海道が実施している地域別経済動向調査では、上川北部地方においては、景気が着実に持ち直しているといわれる中、売り上げの停滞、仕入価格の高騰もあり収益確保が厳しい状況にあります。また、昨年の消費税引き上げに伴う駆け込み需要の反動から、経営環境は厳しい見通しが示されています。

このような状況の中、本市においては、中小企業者などの自主的な努力を基調として、安定した企業経営のために必要な助成などを行っています。

これらの制度を、現在の社会情勢を踏まえた支援内容とするため、

中小企業振興審議会及び審議会に設置される中小企業支援制度検討部会と連携を図りながら、名寄市中小企業振興条例及び同条例施行規則の見直しについて検討を進めてまいります。

一方、国の緊急支援交付金を活用したプレミアム 25%付きの「なよろ地域商品券」を 6 月下旬から販売し、12 月 27 日までの商品券の使用により消費喚起を促し、地域消費の向上を図ってまいります。

## **雇用の安定**

次に、労働関係について申し上げます。

名寄公共職業安定所管内における本年 3 月高卒者の新規就職状況については、就職希望者 174 人全員が内定となり、就職内定率は 100.0 パーセント、前年度比 1.3 ポイントの上昇となりました。また、前年度と比べて就職内定者数は 27 人増で 18.4 ポイントの上昇となりました。

北海道における月間有効求人倍率は 0.90 倍で前年度比 0.08 ポイントの増加となり、当管内の月間有効求人倍率は 0.99 倍で前年度比 0.09 ポイントの減少となりました。

本年度も、ハローワークと連携し、制度の有効活用と雇用促進に取り組んでまいります。

## 観光の振興

次に、観光について申し上げます。

名寄ピヤシリスキー場については、平成 26 年度のリフト輸送人員は 47 万 5,157 人で、前年度比 100.10 パーセントとなりました。12 月及び 1 月の輸送人員については、年末年始を含む冬休み中の天候に恵まれたこともあり、順調に推移しましたが、2 月及び 3 月の輸送人員については、暖冬、小雪<sup>しょうせつ</sup>により客足が遠のき、伸び率は小幅に止まりました。

なよろ温泉サンピラーについては、平成 26 年度の総利用者数は 8 万 970 人で、前年度比 105.08 パーセントとなり、当初計画を上回りました。

次に、道の駅事業について申し上げます。

道の駅「もち米の里☆なよろ」については、平成 26 年度の利用者数は延べ 49 万 7,822 人で、前年度比 100.42 パーセントとなり、過去最高となりました。

また、「北海道じゃらん」が 4 月号で発表した「道の駅満足度ランキング 2015」では、114 施設中第 5 位と、依然として高い評価を受けており、今後も、さらに利用者の皆様に満足いただけるサービスの提供を心がけ、広く情報発信してまいります。

次に、ひまわり観光について申し上げます。

本市を訪れる来客者をひまわりでお迎えすることを目標に、本年度もひまわりの種を市民や町内会などの団体に無料配布しました。

また、市民によるおもてなしの心を醸成するため、本年度も「ひまわりボランティア」を募集し、多くの観光客が訪れる北海道立サンピラーパークのひまわり畑での作業にご協力をいただくことで、市民参加型の観光地づくりを目指します。

次に、広域観光の推進について申し上げます。

上川北部9市町村に及ぶ道北観光連盟の総会が5月12日に本市で開催されました。本年度の事業として、北海道庁赤レンガでの道北地域の物産や観光のPRを実施するほか、ワークショップを開催し、道北の魅力発信について創造してまいります。

また、現在、シーニックバイウェイの候補ルートとなっている「天塩川流域ミュージアムパークウェイ」のルート指定へ向けて、引き続き取組を進めてまいります。

次に、イベント関係について申し上げます。

かみかわ「まるごと食べに」よろーなフェスタ～なよろアスパラまつりが、5月31日に駅前交流プラザ「よろーな」駐車場を会場と

して開催されました。本市の特産品であるグリーンアスパラガスの直売会はもちろんのこと、上川管内のご当地グルメを集めたグルメ市、市内で活動する団体のステージイベント、「なよろう」をはじめ近隣自治体のキャラクターによる各自治体のPR、スペシャルお笑いライブなどが行われ、市内外から訪れた多くの方々がまつりを楽しましました。

## “心豊かな人と文化を育むまちづくり”

### 小中学校教育の充実

次に、学校教育について申し上げます。

4月7日に市内全小中学校の入学式が行われ、小学校では226人、中学校では236人の児童生徒が入学し、本年度の教育活動が始まりました。

確かな学力を育てる教育の推進については、4月28日に第1回目の名寄市教育改善プロジェクト委員会を開催し、委嘱状の交付と全体会議及び研究グループ会議を行い、本年度の研究内容を決定しました。昨年度に引き続き学力向上を目指すとともに、徳育・体育にも重点を置き、研究を推進してまいります。

具体的には、学習指導の工夫改善に関する研究グループでは、道徳の時間の1時間の流れである「基本的な学習過程」を踏まえた授

業のあり方について研修を深めるとともに、読み物資料「名寄岩」を活用した授業交流を行います。

校内研修の充実に関する研究グループでは、体力・運動能力などの調査に関する実技研修や前年度の本調査の分析に基づいた指導改善を図る研修を行うとともに、中堅教職員の力量を高めるミドルリーダー育成の研修も実施します。

教育資源などの活用に関する研究グループでは、子どもたちを健やかに育てるための「家庭で取り組む 7 つのポイント」の定着や、道徳教材「私たちの道徳」の効果的な活用を図るための研修を進めてまいります。

豊かな心と健やかな体を育てる教育の推進については、本年度から読書活動の充実を目指し、名寄小学校、名寄西小学校、風連中央小学校の 3 校に学校図書館の学校司書を先行的に配置し、子どもたちが読書に親しむことができる指導体制を整えました。今後は、学校司書配置の拡大に取り組んでまいります。

特別支援教育の推進については、5 月 14 日に第 1 回目の名寄市特別支援連携協議会を開催し、委嘱状の交付と本年度の取組について協議を行いました。

5 月 21 日に行われました第 1 回目の名寄市特別支援教育研修会では、本市に転入した教職員や初任者、新たに特別支援学級の担任と



なった教員などを対象として、本市の特別支援教育の現状と課題について研修し、共通理解を深めました。

また、これまで小学校 6 校に配置してきました特別支援教育学習支援員を本年度から智恵文中学校にも配置し、合計 7 校に 19 人の支援員を配置し、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた支援の充実を図っています。今後は、特別支援教育学習支援員を効果的に活用し、習熟の程度に応じた指導の工夫や「困り感」のある児童生徒への支援のより一層の充実に取り組んでまいります。

## 大学教育の充実

次に、名寄市立大学並びに名寄市立大学短期大学部について申し上げます。

平成 26 年度卒業式を 3 月 17 日に行い、保健福祉学部栄養学科 40 人、看護学科 50 人、社会福祉学科 47 人、計 137 人と短期大学部児童学科 48 人、合わせて 185 人が卒業しました。

卒業生の 4 月 1 日現在の就職率は、保健福祉学部栄養学科では 92.5 パーセント、看護学科及び社会福祉学科では 100 パーセント、保健福祉学部全体では 97.8 パーセントとなり、短期大学部児童学科では 100 パーセントと両大学ともに高い就職率となりました。

国家試験の結果については、管理栄養士では 30 人が合格し、合格

率は 75 パーセントで新卒の全国平均 95.4 パーセントを下回ったものの、看護師、保健師はともに 50 人の卒業生全員が合格し、大学新卒の全国平均合格率 95.5 パーセント、99.6 パーセントをそれぞれ上回っています。また、社会福祉士では 26 人が合格し、合格率は 56.5 パーセントで大学新卒の全国平均 45.4 パーセントを上回りました。

平成 27 年度入学式については、4 月 6 日に挙行し、保健福祉学部 153 人、短期大学部は最後の入学生となります 52 人、合わせて 205 人の新入学生を迎えました。

今後も、複雑化・多様化する保健・医療・福祉の現場から求められる豊かな人間性と専門性を備えた職業人を育て、社会に送り出せるよう取組んでまいります。

次に、大学図書館の建設については、実施設計を終了し、明日 6 月 2 日に入札を予定しており、本定例会の最終日に、工事請負契約締結の議案を提出する予定となっています。

次に、平成 28 年 4 月に設置を予定している保健福祉学部社会保育学科について申し上げます。

2 月 10 日、12 日に市民向けの説明会を開催し、約 50 人の市民に参加をいただき、新学科の概要、設置の趣旨などについて説明を行

いました。また、学内に社会保育学科設置準備室を設け、4月24日に文部科学省へ社会保育学科設置の届け出を終えたところです。

なお、本定例会に新学科設置に係る条例改正案を提出させていただきますので、よろしくご審議をお願いいたします。

## **食育の推進**

次に、食育の推進について申し上げます。

各学校へ給食を届けている配送車は、平成5年式で約22年が経過しており、経年劣化による故障が頻発していたため6月の更新を予定しています。これにより、配送・回収業務の安定が図られ、円滑な学校給食の運営に寄与することができます。

学校給食費については、平成9年の改定以降、据え置かれてきましたが、名寄市学校給食会では、物価上昇に伴う食材費の高騰により、本年度4月から小学生12円、中学生14円の値上げを実施しています。今後も、地産地消を推進し、栄養量を保ちながら給食の献立を充実してまいります。

## **生涯学習社会の形成**

次に、生涯学習の推進について申し上げます。

高齢者を対象として36年目を迎える名寄ピヤシリ大学は、新入生

7人と5人の大学院生を、また44年目を迎える風連瑞生大学は、新入生6人と16人の大学院生を迎え、それぞれ4月21日と28日に入学式を行いました。

新入生をはじめ学生の皆様は、生涯学習社会を見据えた今後の学習活動へ意欲を燃やしているところです。

また、智恵文高齢者学級「友朋学級」では、小中学校行事への参加や教養講座など、交流と学びの場として20人が受講しています。

平成19年度から開設している市民講座「なよろ入門」については、本年度も5月21日の「総合計画とまちづくり」を皮切りに13回を実施し、学習活動の機会を提供してまいります。

次に、市立図書館について申し上げます。

4月から、図書館主催行事のお知らせや図書館司書のおすすめ本の紹介を載せた、図書館だより「ほんとも」を隔月で発行しています。

また、「子どもによんであげたいおすすめ絵本 3～6歳向き」リストの改訂を行い、幼稚園、保育所などに配布しました。

さらに、4月から5月にかけての「こどもの読書週間」にちなみ、本館では「こども図書館まつり」、風連分館では「春のおはなし会」を開催し、多くの子どもや保護者の参加をいただきました。

今後も、有益な情報の発信に努め、家庭や地域における読書の普

及に力を注いでまいります。

次に、なよろ市立天文台について申し上げます。

4月4日には、全国で皆既月食が見られ、天文台でも観望会を実施し196人の来館者がありました。また、全国向けにインターネット中継を実施したところ10万805人のアクセスがあり、美しい皆既月食の姿を楽しんでいただきました。

プラネタリウムでは、5月1日から新番組「オーロラの調べ」の上映を開始しました。北海道では、本市が初上映となり多くの方々から好評を得ています。

また、5月2日から6日までは、ゴールデンウィーク観望会を実施し、うち4日間は晴天に恵まれ253人の参加がありました。

5月23日には、東京都杉並区との交流事業として、杉並区で開催されています脳科学者の茂木健一郎氏による「脳も地域も活性化！つながりづくりを科学する」の講演をインターネットで中継しました。

## **地域文化の継承と創造**

次に、芸術文化の振興について申し上げます。

平成23年度から市民ホール整備事業として整備してきました、市

民文化センター「EN-RAY ホール」は、3月30日に引渡を受け、5月9日に開館記念式典を実施しました。式典には、400人を超える来賓や市民のご出席をいただき、盛大に執り行うことができました。これまで、ご尽力をいただきました関係各位並びにご浄財をお寄せいただいた皆様にお礼を申し上げます。

また、5月17日に、記念事業として実施した「名寄の第九」では、多くの市民の参加をいただきました。6月5日開催の「札幌交響楽団・小山実稚恵特別公演」についても、入場券はほぼ完売となっており、順調な滑り出しとなっています。

なお、4月に施行しました文化芸術振興条例に基づく助成制度については、市民団体などから音楽や演劇などの公演を開催するにあたり、助成の問い合わせが寄せられています。今後も、助成制度を活用していただき市民の文化芸術に対する意識を高めてまいります。

次に、北国博物館について申し上げます。

平成26年度の入館者数は、1万4,058人で、前年度比2,398人の増となり、昭和の夏休み展や名寄岩関生誕100年記念展などに市内外から多くの方々に訪れていただきました。

本年度も4月25日から開催しましたゴールデンウィーク企画「博物館で遊ぼう」では、12日間で延べ1,560人の入館者があり、多く

の家族連れで賑わいました。期間中は名寄高等学校、名寄市立大学の学生ボランティアの応援を受けて、木製遊具、リサイクル遊具などの体験や動物とのふれあいを楽しんでいただきました。

5月から実施している小学校4年生から6年生を対象にした「小さな自然観察クラブ事業」には、29人の応募がありました。この事業は、全7回のメニューとなっており、今後とも自然とのふれあいや体験を通して、自然の仕組みや人との関わりなどを理解し、子ども同士の交流を深める取組を行ってまいります。

また、本年はSL排雪列車「キマロキ」が保存展示40年と深名線廃線20年の年にあたり、5月23日から記念展を開催しています。記念展では、キマロキ保存の歴史、深名線の思い出などを写真、解説パネルや映像で紹介しています。今後は、6月27日、28日に実行委員会が実施する記念事業「キマロキまつり」と連携を図りながら進めてまいります。

## **家庭教育の推進**

次に、家庭教育の推進について申し上げます。

家庭教育学級については、本年度も引き続き3つの幼稚園に協力をいただき、3学級を開設しました。今後は、家庭教育支援講座などにおいて、保護者が自主的・自発的に企画・運営できるような機会

の場を提供できるよう取組んでまいります。

### **生涯スポーツの振興**

次に、スポーツの振興について申し上げます。

長い歴史を誇る憲法記念ロードレースは、本年度で 63 回を迎え、5 月 10 日に、なよろ健康の森陸上競技場を発着として開催しました。

本年度は、一昨年からハーフマラソンの部を取り入れたことや、インターネットサイトでの申込みが定着してきたことから、平成 9 年以来、18 年ぶりに 700 人を超えるエントリーがあり、当日は 698 人の参加をいただきました。遠くは鹿児島県や石川県などからの参加もあり、それぞれの種別で健脚を競い合うことはもとより、交流人口の拡大につながるイベントとして成長してきています。

### **青少年の健全育成**

次に、放課後児童クラブについて申し上げます。

本年度の利用登録者数は、南児童クラブが 84 人、風連児童クラブが 39 人と年々増加傾向にあります。

季節に応じた様々な企画や一輪車教室などの行事を通して、子どもたちの健全育成を図り、放課後児童の安全安心な居場所づくりの充実に取組んでまいります。



次に、青少年センターについて申し上げます。

近年、全国的に青少年が犯罪の被害者となるケースが増えてきている中で、本市においても不審者と思われる人物・行動の目撃情報が増えています。

青少年センターでは、本年度も各町内会から推薦された64人の指導員のご協力をいただき、日常の巡視活動に加え、不審者情報発生時の特別巡視を随時行うなど、各学校とも連携し児童生徒の安全を守るため活動してまいります。

次に、教育相談センターについて申し上げます。

4月に全小中学校を訪問し、不登校や困り感のある児童生徒などについて情報交換を行うとともに、学校を通じ全児童生徒、保護者へハートダイヤル、適応指導教室、夜間相談などのパンフレットを配布しました。

今後も、学校及び関係機関と連携し、多様化している諸問題について早期に取り組んでまいります。

次に、放課後子ども教室について申し上げます。

名寄市放課後子ども教室は、本年度から風連地区で新たに中学生教室を設置し、名寄地区と風連地区において、それぞれ小学生教室

と中学生教室を開講しました。

現在、4 教室合わせて 34 人の子どもたちが、自ら学び自ら考える力を身に付けるため、各教室で自学自習やテーマ学習に取り組んでいます。

以上、主な行政事項について、その概要を申し上げ報告といたします。